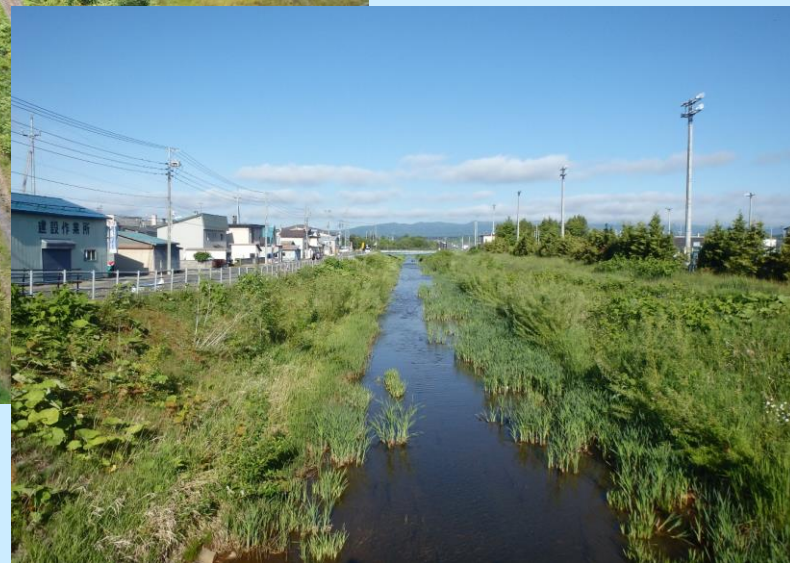


# 豊栄川における環境創出について



北海道 上川総合振興局 旭川建設管理部 士別出張所  
専門主任 松本崇男

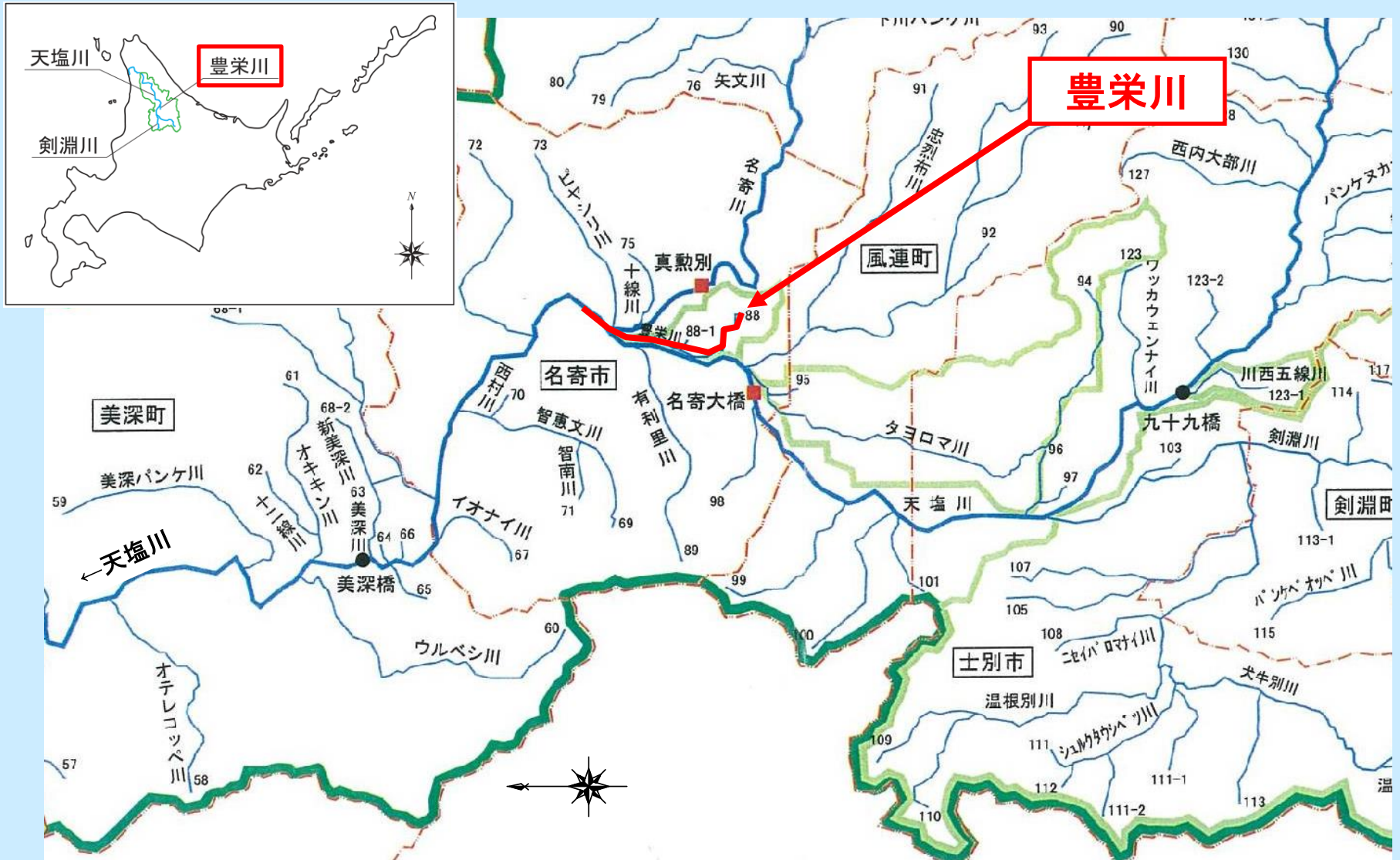
# 目次

1. 豊栄川の事業概要について
2. 豊栄川上流遊水地の環境創出について
3. まとめ・今後の課題

# 【豊栄川の事業概要について】



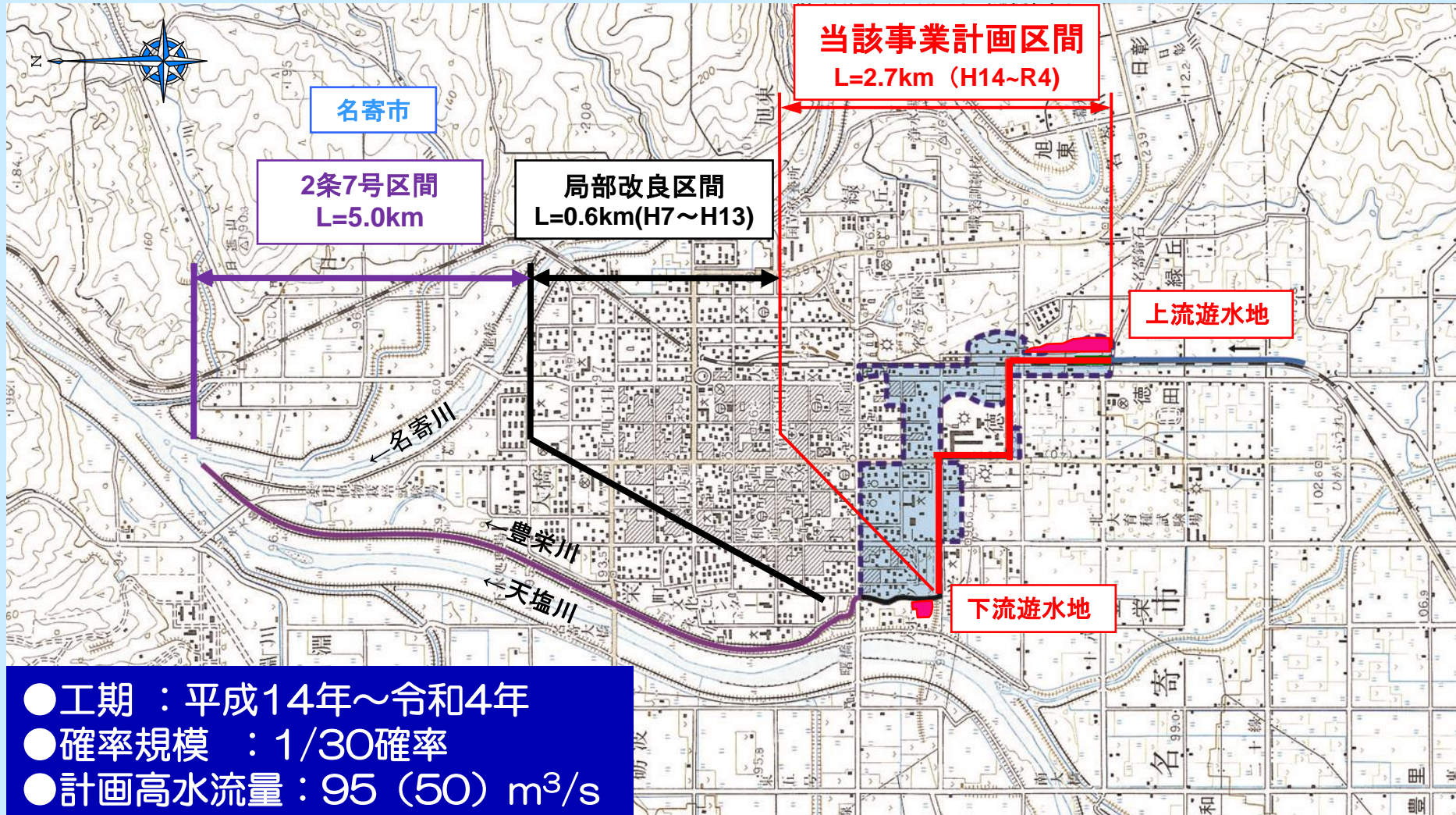
# 豊栄川の概要



豊栄川は標高216mの無名山に源を発し、一級河川天塩川に流下する流域面積 $A=13.1\text{km}^2$ 、流路延長 $L=8.9\text{km}$ の小河川である。流域の9割を名寄市の都市計画区域が占める。



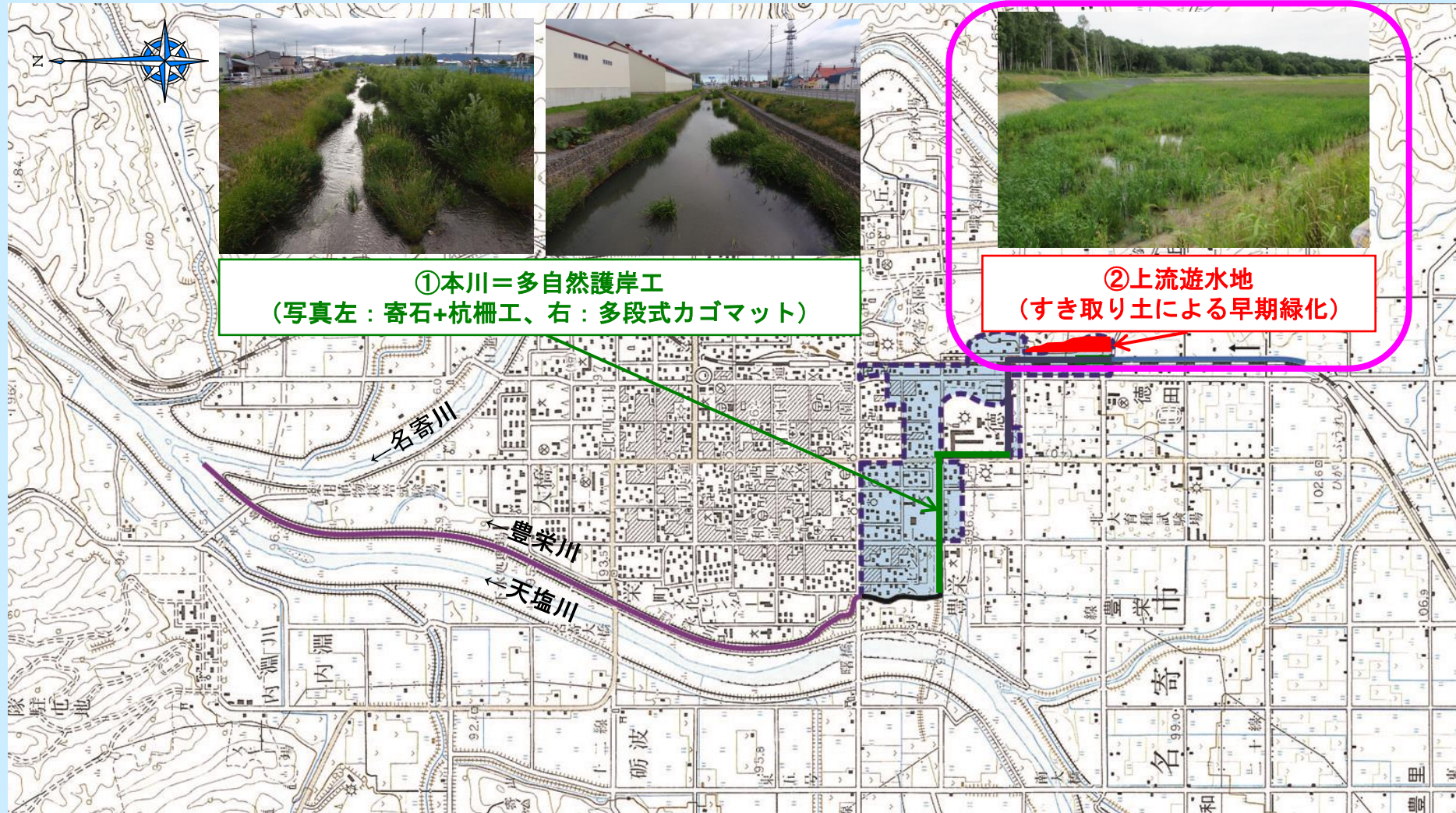
# 豊栄川河川総合流域防災事業の概要



- 工期：平成14年～令和4年
- 確率規模：1/30確率
- 計画高水流量：95 (50) m<sup>3</sup>/s
- 関連事業等：なし



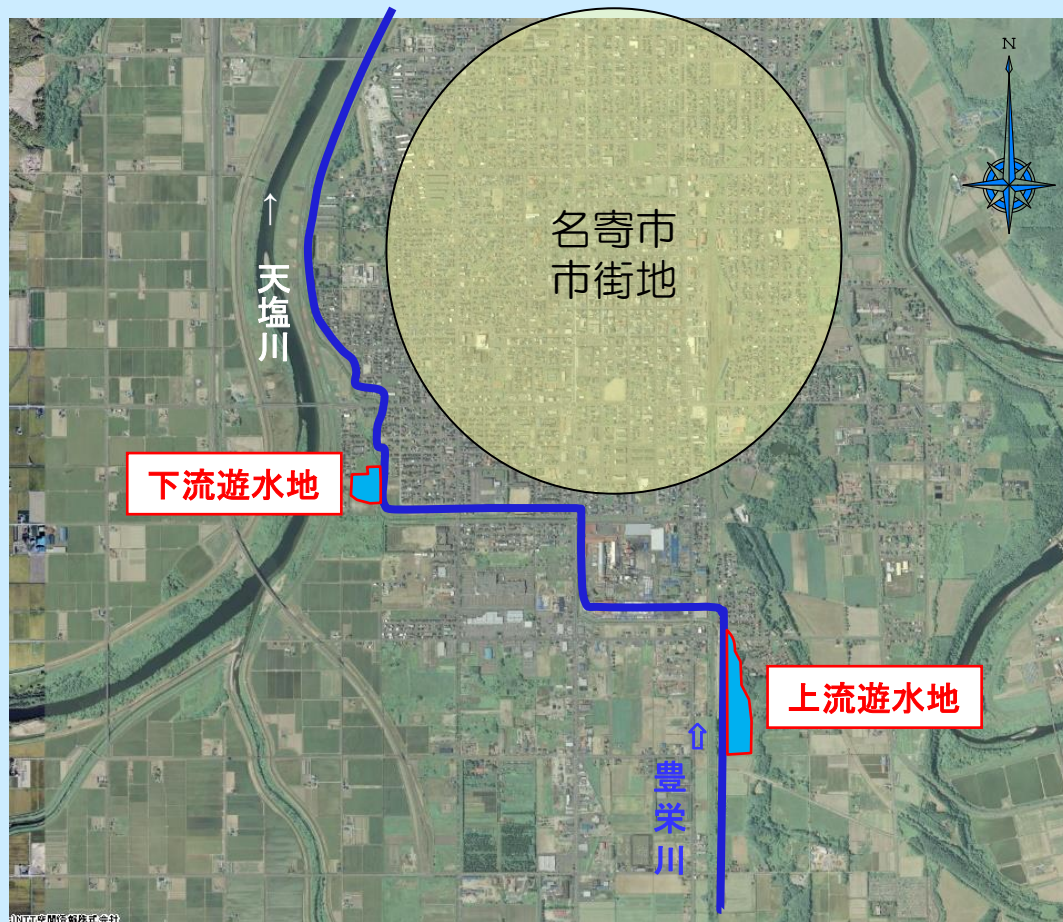
# 豊栄川で実施した環境保全対策



# 【豊栄川上流遊水地の環境創出について】



# 豊栄川遊水地の概要



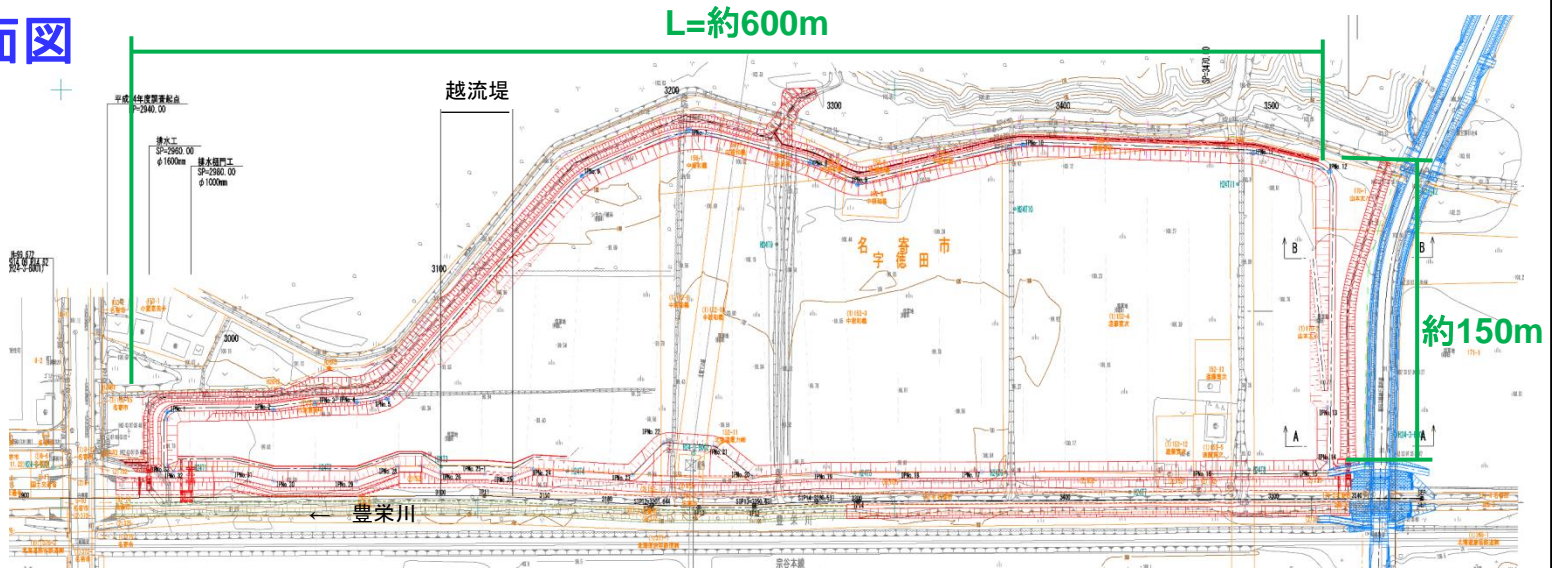
遊水地は大雨などで川の水が急に増えたとき、その一部を貯めて下流に流れる量を少なくする役割を持っている。

豊栄川遊水地は、名寄市市街地の南に位置し、現在は下流遊水地（サッカー場）、上流遊水地（整備中-今年度で施工完了予定）の2つの遊水地がある。

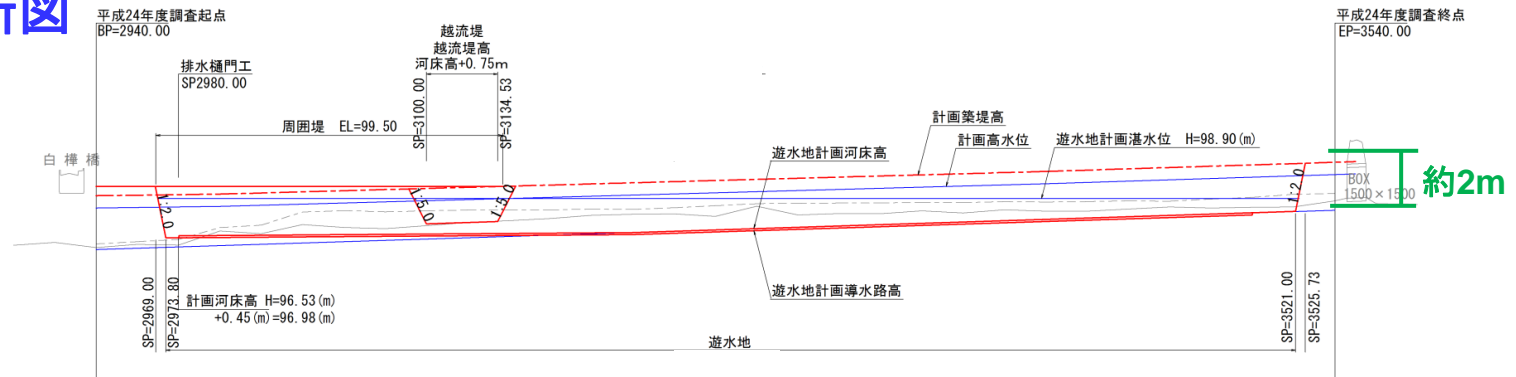


# 豊栄川上流遊水地の概要

平面図



縦断図



遊水地最大調整容量  $V=43,171\text{m}^3$   
 遊水地面積  $A=\text{約}60,000\text{m}^2$   
 遊水地周長  $L=\text{約}1,360\text{m}$   
 計画調整流量  $Q=27.65\text{m}^3/\text{s}$



# 豊栄川上流遊水地の周辺状況

名寄市の市街地  
(人口=約2万6千人)

名寄ピヤシリ  
スキー場

上流遊水地  
(治水機能と湿地環境の創出)

名寄高校駅  
(R4.3.12新設)

上流遊水地は、名寄市市街地の南東側に位置している。  
遊水地の西側にはJR宗谷本線が通っており、遊水地の南西側には「名寄高校駅」がある。



# 上流遊水地整備前の状況

～平成24年～



整備前は牧草に覆われており、植生は外来牧草が植被率90%以上を占めていました。

# 上流遊水地環境創出に向けた流れ

## 課題1

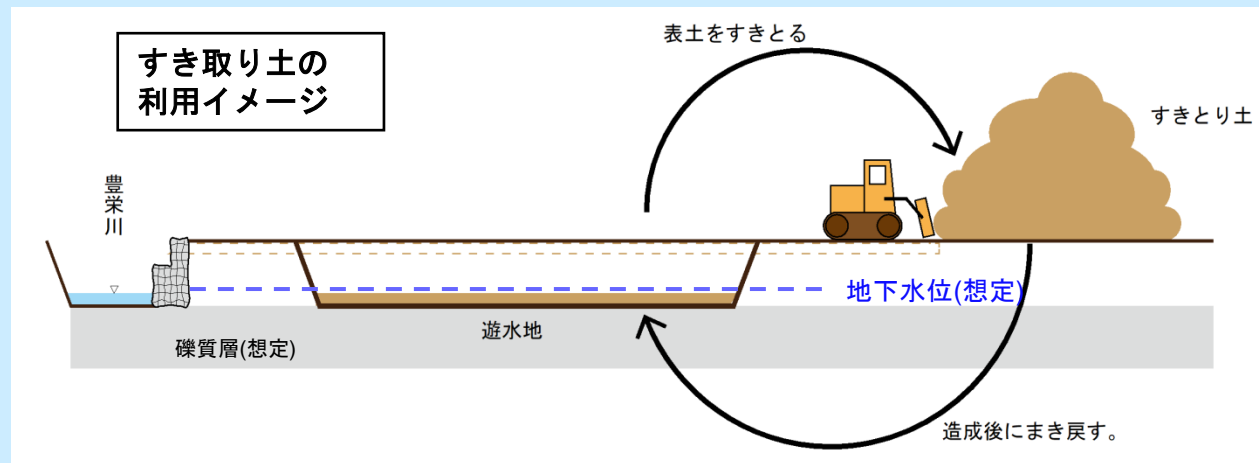
掘削後の遊水地にヤナギ等樹木が繁茂しては困る。⇒すき取り土を有効利用し早期緑化を図る。

## 課題2

掘削後は地下水位が高いことが想定されるため、すき取り土から植生が回復するか？  
また、掘削面が礫質の場合、標準の10cm厚の敷均しで十分か？ ⇒試験施工による事前確認を実施。



H27.7試験施工から1年後、9割以上植生回復





# 施工後の状況(施工後6年目)

～令和4年～

植生回復状況(施工後6年目)

ガマ群落

クサヨシ-アブラガヤ-イグサ群落

イグサ群落

令和4年8月

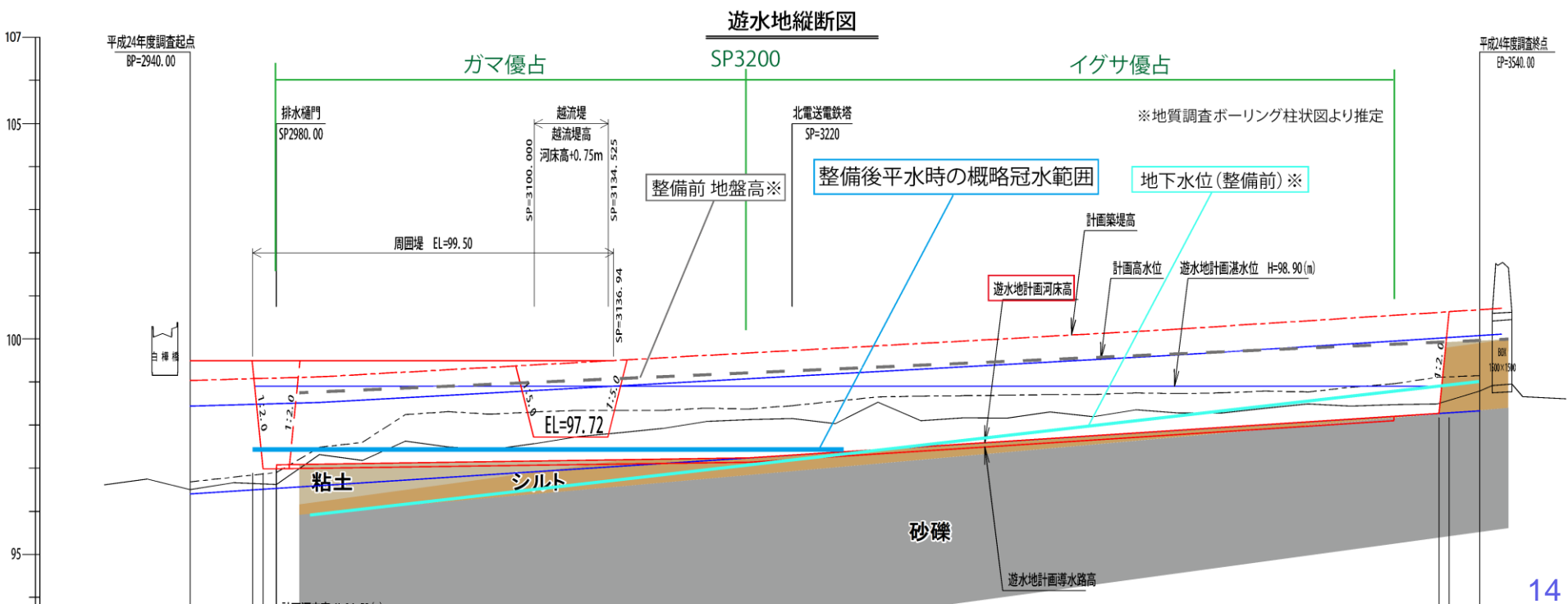
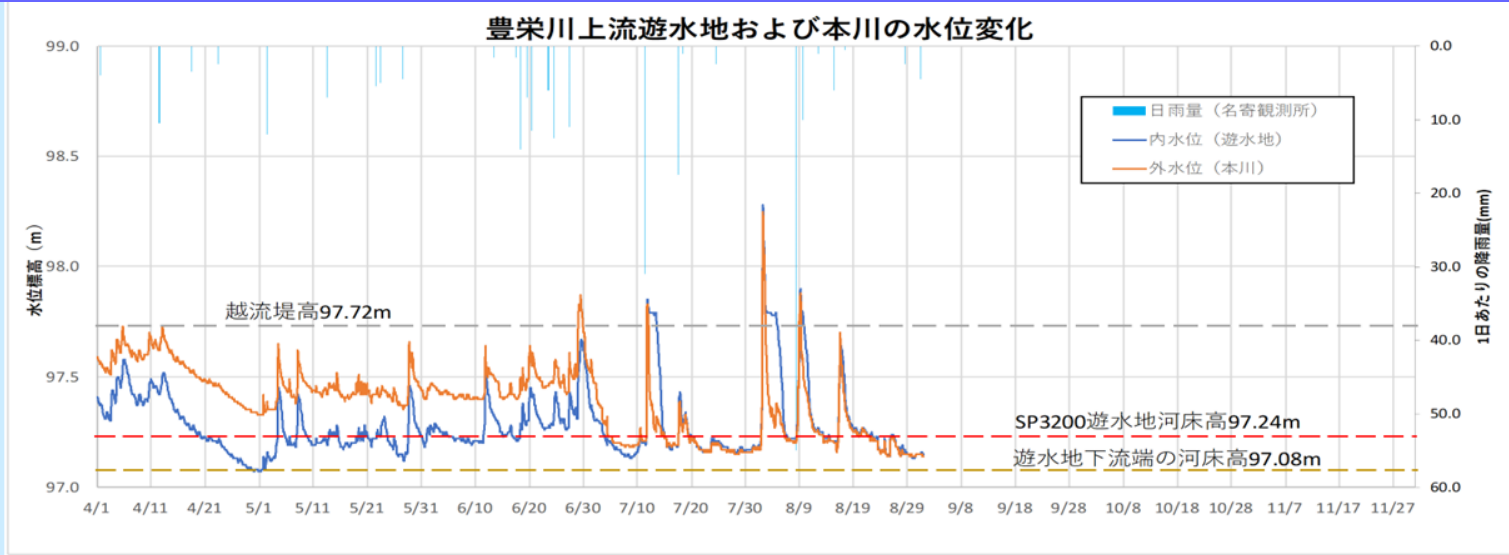
整備前乾燥箇所であった下流側は、水深10cm程度の「**湿地**」となり、抽水植物のガマ群落となった。  
上流側は湿生植物のイグサが優占する群落となっている。  
植被率はいずれも80～90%となった。

植生回復状況(施工後6年目)～下流付近

湿地に変化

令和4年8月

# 遊水地内の水位について

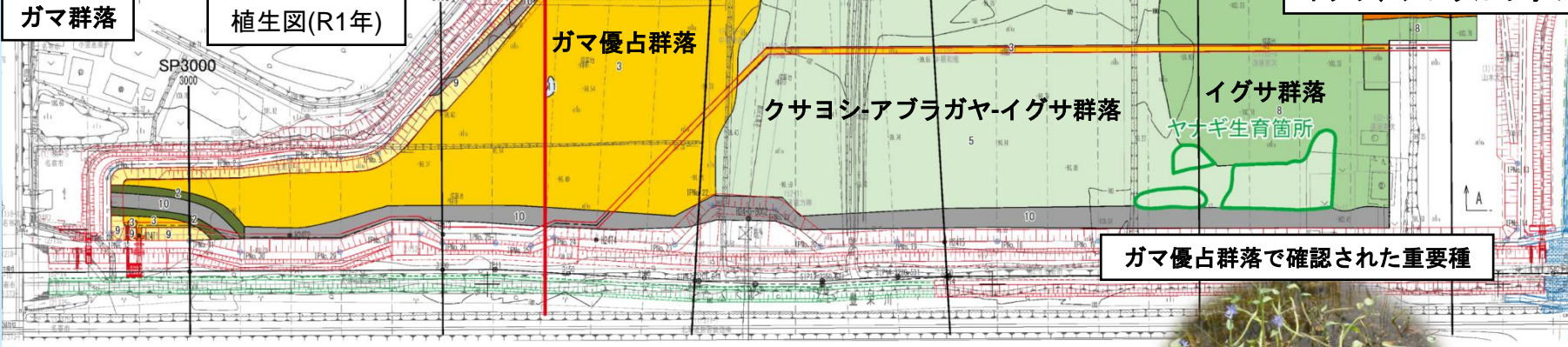




# モニタリング結果(植物)



ガマ群落



植生図(R1年)

ガマ優占群落

クサヨシ-アブラガヤ-イグサ群落

イグサ群落

イグサ、アブラガヤ等の群落

ガマ優占群落で確認された重要種



ガマ群落

抽水植物群落  
(常時冠水)



クサヨシ-  
アブラガヤ-  
イグサ群落



イグサ群落

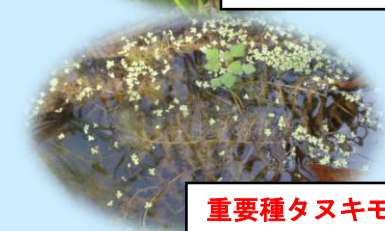
湿生草原



重要種ミズアオイ



重要種ヒメミクリ



重要種タヌキモ属の一種



# モニタリング結果(動物)

一年生草本群落	イヌビエ群落	1
多年生広葉草本群落	オオヨモギ群落	2
単子葉草本群落	ガマ群落	3
(その他の単子葉草本群落)	ガマクサヨシ群落	4
	クサヨシ-アラガヤ-イグサ群落	5
	クサヨシ優占群落	6
	イグサ-クサヨシ群落	7
	イグサ群落	8
	イネ科牧草群落	9
人工裸地		10
水面		11



## 魚類



赤字：重要種

## 湿地環境



## 湿生草原



## 砂礫地





## 【まとめ・今後の課題】

# まとめ・今後の課題

## 【 上流遊水地の施工による効果 】

- ・ 遊水地の施工により、単調な環境であった牧草地が湿地環境となり、多種多様な動植物の生息・生育が確認されるようになった。
- 遊水地の治水機能に加え、生物多様性向上等の多面的な機能を併せ持つグリーンインフラとして位置づけられる。今後、地域振興とも結びつく可能性を秘めている。

## 課題①： モニタリング調査の実施

- ・ 現在、遊水地内には湿地が形成されており、多種多様な生物が生息している。
- これらの生物の生息環境のモニタリング調査の継続が望まれる。



# まとめ・今後の課題

## 課題②： ヤナギ類等の樹林化対策

- ・ 湿生草原では、ヤナギ類の稚樹が一部で確認され始めている。
- 維持管理作業などで実施可能な対応を模索する。



## 課題③： 地域振興および地域連携の模索

- ・ 治水機能の確保と湿地創出の両方の実現は、グリーンインフラの事例として価値があると考えられる。
- 隣接する名寄高校やJR名寄高校駅など、市街地に近い立地を活かし、湿地を活用した地域振興や地域連携の可能性を模索する。





ミズアオイ



エゾイトンポ



クイナ

ご清聴ありがとうございました。